

区分	検討会	意見概要	検討事項	改訂の方向性（案）
基本となる考え方	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 前回改訂時のガイドライン名称変更には自助・共助を重視する意図があった。今回の改訂では<u>緊急時の対応を前提に、人命とペット福祉のバランスを考慮した内容検討が必要。</u></li> <li>▶ <u>緊急時に平時の動物福祉の水準を求めすぎること</u>で避難が妨げられる可能性や、自治体の対応範囲の限界があることを認識することも必要。</li> <li>▶ <u>人の防災力を高め、その上でペットを守る対策をどう講じるべきか</u>という考え方のベースを改めて検討していただきたい。</li> <li>▶ 3つのリフレーミングが必要と考える。①多様な市民属性の一つとして<u>ペット飼養者を含めたインクルーシブな防災・減災</u>、②<u>飼い主の適正飼養と「飼い主力」の向上</u>、③<u>避難に関する用語の再定義と行動変容の促進。</u></li> <li>▶ <u>ガイドラインの目標の一つは「飼い主とペットが無事に災害を乗り越えることで地域の防災力向上につながる」こと。</u> 今回の改訂でもこの視点を盛り込むべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>大規模災害時に行政機関がペット救護対策を実施することの意義や目的の再整理</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>ガイドラインの総説における災害時のペット対応の意義や目的について、必要な整理を行う。</b></li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 能登半島地震においては、避難所のルールや体制が整っていたわけではなく、<u>混乱の中で避難所に入り込んだ事例が多かった。</u> その後に苦情が出てペットが分離等される状況もあったため、「改訂の背景及び目的」にはこれを正確に記載すべき。</li> <li>▶ <u>避難先として在宅避難の提案を入れてもいいのではないか。</u> 在宅避難者が物資や情報から漏れない仕組みを防災側で検討することは必要だが、在宅避難に必要な準備や課題も含めて飼い主へ啓発できるといい。避難先の分散によって避難所の分母を減らすことができれば、避難所環境の改善につながるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 「改訂の背景及び目的」の記載を修正</li> <li>✓ <b>多様な避難形態の提案</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 趣旨を踏まえて修正する。またその他の部分でも詳しく記載する。</li> <li>■ 「避難中のペットの飼養環境の確保」や「飼い主の飼養環境整備のための支援」について必要な整理を行う。</li> </ul>
構成、見せ方	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 自治体が<u>ペットに必要な環境や準備を分かりやすく示す</u>必要があり、環境省と連携しながら、適切な情報を伝える方法を検討したい。</li> <li>▶ 担当者の異動がある自治体では、<u>災害時にすぐ活用できるよう、ガイドラインにおいて重要情報を簡潔に示す</u>などの見せ方の工夫が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>構成をはじめとするとりまとめ方法だけでなく、インデックスや各ページのデザイン面も含めた検討</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>構成を再構築し、主体別に情報をなるべくまとめる形にして、必要な情報を入手しやすくする。また、ページデザインも専門家を入れて視覚的にも見えやすく整える。</b></li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 現行のガイドラインには、行政や市民など、読む人が「つまずきやすい箇所」が散見される。<u>科学的な説明や具体的な事例を示し、適切な対応策を丁寧に伝えることが重要</u>と考える。</li> <li>▶ 「<u>同行避難</u>」、「<u>同伴避難</u>」、「<u>在宅避難</u>」などの多様な「<u>分散避難</u>」について簡潔明瞭な定義を提示し、それぞれの避難形態でだれが何をするのかをガイドラインで明確に示すことで、被災者や飼い主は適切な行動を取りやすくなるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <b>科学的な説明や具体的な事例を交えたわかりやすい解説</b></li> <li>▶ <b>用語の解説の再整理</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ポイントを簡潔に示すとともに、科学的でわかりやすい解説内容とする。</li> <li>■ 誤解の生じにくいよう用語を再定義、解説する。</li> </ul>
部局間連携	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ガイドラインの内容は充実しているが、混乱が繰り返される原因は活用する側の関係性やコミュニケーション不足。改訂だけでなく<u>防災実践を通じた連携が必要。</u></li> <li>▶ <u>自治体や獣医師会などが定期的な検討の場を設けることが重要。</u></li> <li>▶ <u>防災部局と動物関係部局の連携不足</u>が感じられる。<u>平時から行動を通じた連携を強化することが必要。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>防災訓練等をはじめとする平時からの連携体制構築の必要性</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>都道府県と自治体、部局間の連携などについて、新たに章立てをして、事例等も紹介し、情報を厚くする。</b></li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 部局間連携について、記載上では防災部局と動物関係部局の2つの連携となっているが、災害時には住宅（仮設住宅）や福祉（要配慮者）等の関連部局との連携も必要になる。どういった部局との連携が必要かを再整理して記載すべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>自治体の中での連携について整理</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>どのフェーズでどの関連部署との連携が必要になるかを分かりやすく記載する。</b></li> </ul>
体制構築	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ <u>ガイドラインを活用する人材や普及の仕組みが不足している。</u> 動物看護師などの専門職が啓発活動に関わることで普及が進むのではないかと。災害支援ナースのような仕組みを参考に<u>動物看護師の役割を明確化し、連携を強化する必要がある。</u></li> <li>▶ <u>動物関連団体の連携不足が現場の混乱を招いた。</u> <u>登録制度を設け、背景のわかる団体が被災地に入る仕組みを整える必要がある。</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ <b>災害時の動物看護師の役割の整理</b></li> <li>✓ <b>既存の仕組みを利用（応用）したペットに関する支援体制の仕組みの検討</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ <b>官民含め、関係機関の役割などについても情報を更新する。</b></li> </ul>

	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定締結後の実効性を確保することが重要である。締結先の規模や実際の対応能力を考慮し、具体的な行動スキームを構築する必要がある。その点では地元で完結する支援体制を整え、被災者自身が避難所で情報提供や活動できるような方策を考えることも必要ではないか。</li> <li>マイクロチップによる迷子動物の対応について、制度変更により獣医師会が担うことができなくなっている。協定締結後も、制度変更や新たな課題に対応する仕組みを検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>締結先の規模や実際の対応能力を考慮した具体的な行動スキームの構築</li> <li>制度変更や新たな課題に対応する仕組みを検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>協定締結後の課題等も踏まえた支援体制の構築について、コラムとして掲載を検討。</li> </ul>
避難所運営	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>ペット対応の立派な避難所や同室避難を求める動きがある一方で、近くの避難所でいかにペットにも対応するかという視点が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所におけるペット対応の方法や種類、工夫の解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所での動物飼養環境の整え方について、考え方や必要な物資、具体的な事例などを掲載する。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所運営におけるアレルギー対応についてもコラム的に記載いただきたい。避難所での住み分けの具体例や医師の見解をガイドラインに盛り込むことで、避難所担当者が避難者に適切に対応できるようにすべきと考える。</li> <li>避難所におけるペット同行避難の可否について、市町村のホームページなどで明示されていないケースが多い。避難所への集中を防ぐためにも在宅避難や分散避難の重要性を強調し、避難所のペット受け入れ可否を含めた情報提供を市町村が積極的に行うべきと考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所におけるアレルギー対応の方法や種類、工夫の解説</li> <li>同行避難の可否に関する情報発信の重要性を解説</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所での住み分けの具体例や科学的な見解等を掲載する。</li> <li>事例等も踏まえ情報発信の重要性を分かりやすく記載する。</li> </ul>
情報収集、支援	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>また、中間支援組織やボランティアがペットの情報収集を行えるよう、ペットに関する項目を設けるべき。</li> <li>物資の管理やニーズに合った支援が課題となった。情報収集を行う人材と連携してニーズに応じた支援を効率的に行う仕組みを構築することが重要。</li> <li>支援活動と地元経済の復興を両立させる視点が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の仕組みを利用（応用）したペットに関する情報収集の仕組みの検討</li> <li>支援の考え方の整理、物資の管理</li> <li>復興に向けた支援の考え方の整理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の情報収集や物資の支援については、行政や民間での取組事例も交えながら解説。必要な情報の更新を行う。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>避難所からの情報が十分に吸い上げられないことが課題。内閣府の新総合防災情報システムに避難所ごとのペット同行避難の可否やペットに関する情報を組み込んでもらえると情報収集がスムーズに進むのいいと思う。</li> <li>避難所でのペットに関する情報収集は自治体のやることの一つとしてガイドラインの中でも掲載することが必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の仕組みを利用（応用）したペットに関する情報収集の仕組みの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災者の情報収集や物資の支援については、行政や民間での取組事例も交えながら解説。必要な情報の更新を行う。</li> </ul>
普及啓発	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>輪島や珠洲などでは、ペットに関して地域防災計画の記載は存在したが、実際の避難所運営では混乱が発生した。平時から受入れルールや運用を明確化し、飼い主自身も避難訓練に参加するなどして内容を理解する必要がある。</li> <li>ガイドラインの実務担当者への浸透が不十分で、避難所運営マニュアルにも反映されていない。普及方法を考えるべき。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な情報発信と普及啓発の手段の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般飼い主向けの情報も引き続き掲載。ペットとの避難についての考え方や平時からの備えについて、必要な情報の更新を行う。</li> </ul>
	第2回	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害訓練も重要だと考えており、スターターキットを活用した実際の訓練事例等もガイドラインに掲載していく必要があるだろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>効果的な情報発信と普及啓発の手段の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>行政や民間での取組事例も交えながら解説。必要な情報の更新を行う。</li> </ul>